

剣道部山城高校時代

山城8回 麻生一夫

京三中・山城高創立百年、まことにおめでとう御座います。昭和二八年六月、私が山城高校一年生の時、文部省が高校教育にも剣道（武道はGHQにより禁止されていたが昭和二五年講和条約締結により柔道が、昭和二七年に剣道が許可されていた）を導入する事が発表されました。一緒に剣道をならつていた同期の森路英雄君と私の二人で、山城高校に剣道部を創設しようと学校に申し出て認められました。

剣道禁止時代に剣道に似たしない競技部と言うのが、私が入部していた無線部の三年生にしない競技部部長の野入省吾先輩（山城六回卒）がおられ、しない競技部の予算二千円を引継ぎ剣道部が誕生しました。部員は五〇名以上を集めて、部長森路英雄、会計森美智夫、橋本英雄、大迫雄二（途中入部）、麻生一夫を中心として活動しました。稽古は教室の机を片付けて道場としました。時々床を踏み抜いて板切れと鋸で修理をしながら

ら、屋上や体育館の控え所でも行いました。素足でコンクリート上の稽古はさすがに辛いものでした。たまに体育館が使えた時は最高の稽古が出来ました。周辺の学校にも剣道部が出来てきまして、当時、堀越しの西隣の京都工芸繊維大学藤村昌司（昭和一九年入学）先輩がおられた京都大学対校試合で知り合った花園高校、京都商業高校、道場仲間が創部していた紫野高校などと稽古をしました。その他、本当に多くの方々の支援を受けて創生期の剣道部は活動しました。私の年度の最高成績は京都選手権団体三位（近畿大会出場権獲得）が最高でしたが高段位の指導者無しの生徒だけの稽古で行った部活動としては、条件の整った他校に伍して良く健闘したほうだと今でも満足しております。奇手奇策の勝つ剣道に精進した森路部長と、出来るだけ正當な剣道を心がけたつもりのと、ほぼ交互に団体戦の大將を務めました。後輩達も私達のレベル以上の成績を維持してくれまして、十年後には京都で右に出る高校がない黄金期を迎えました。昭和三十一年卒業と同時に山城高校剣友会なるOB会を作り、やがて京三中剣道部の先輩方と合併して京三中山城高剣友会となり、会員の親睦と現役剣道部への援助を目的として活動しております。顧みますと五〇年の永きになり母校一〇〇年の歴史の半分を占める事となっております事は感無量でございます。